



歴史は続く

これからも

### 未来に向けた決意

明治の学制発布よりも前から、子どもたちに対する教育は、寺子屋などで熱心に行われていました。

戦後、義務教育が始まってからも、小学校は地域の中心であり続けます。それは、子どもたちが「地域の宝」「地域の未来」だから。

今年、松合小と不知火小が再編され、新しい小学校が誕生したのも同じ理由。

近年、市内で最も児童が少なく、令和2年度は全校児童38人で、複式学級も2クラスあった松合小。

熊本地震で校舎に甚大な被害を受け、子どもたちが数年間、プレハブの校舎での授業を余儀なくされた不知火小。

2つの小学校に通う児童によりよい教育環境を届けたい。その思いから保護者と地域、そして市が話し合いを続け、2校を

統合した新しい小学校の誕生が決まりました。

特に、地域から学校がなくなる松合小の関係者たちは「これからの松合はどうなっていくのか」「歴史ある学校を自分たちの代でなくしてもよいのだろうか」など、真剣に話し合い、悩みました。

地域の子どもに、より多くの子どもと触れ合って、未来に羽ばたくために必要な社会性や協調性を身に付けてほしい。その中で、大きく育ってほしい。

明治時代、寺子屋や学校をつくった人たちと同じように、地域の将来を担う子どもたちに、よりよい教育環境をつくるための決断でした。

### 新「不知火小」が歴史をつなぐ

2つの小学校の歴史の重さを受け継いで誕生した新「不知火小学校」を舞台に、これからの地域の未来を担う子どもたちが育まれ、新しい歴史が刻まれていきます。